

第1回 大河ドラマ「風林火山」をめぐって 平成18年9月19日

講師 佐倉一徳さん NHK長野放送局企画総務部副部長
樋口 博さん 長野市産業振興部観光課課長

第2回 もっと楽しくて、元気な街づくりを 平成18年10月23日

講師 久米えみさん ながのクラッセ会長
樋口敦子さん ながのまちづくりカフェメンバー

第3回 スポーツによる街づくりを 平成18年11月21日

講師 鷺沢幸一さん アスレながの事務局長
室賀 豊さん 長野市アイスホッケー協会理事

第4回 写真で見る長野の街並み 平成19年1月23日

講師 清水隆史さん フォトグラファーほか
常盤昭二さん CMディレクター

わいがやサロンスペシャル
スポーツによるコミュニティ再生 平成19年2月22日
講師 二宮 清純さん スポーツジャーナリスト

第5回 健康と美容を保つために 平成19年3月22日
講師 虎羽里(トラバリ)ゼーラさん アーユルヴェーダ・健康セラピスト

第6回 環境と街づくり
ばていお大門・ToiGOの設計に参画して 平成19年4月23日
講師 竜野泰一さん 株式会社エーシーエ設計 取締役副社長 [一級建築士]

第7回 信濃グランセローズの挑戦 平成19年5月21日
講師 木田 勇さん 信濃グランセローズ監督

第8回 スポーツマンシップの大切さ 平成19年8月29日
講師 荻原健司さん 参議院議員・五輪金メダリスト

第9回 トウガラシの尽きせぬ魅力/
「農」による地域活性を探る 平成19年10月24日
講師 松島憲一さん 信州大学大学院農学研究科 准教授

第10回 命のバトンを渡す「ビオトープ」/
長野市をビオトープネットワークシティに 平成19年11月14日
講師 松岡保正さん 国立長野工業高等専門学校 環境都市工学科教授

わいがやサロンスペシャル
長野・考/長野の明日を話そう 平成20年2月14日
講師 中馬清福さん 信濃毎日新聞主筆

第11回 簡単・おいしい・オシャレ/わたしのレシピができるまで 平成20年3月26日
講師 浜このみさん クッキング・コーディネーター

第12回 あなたのからだは「築何年」ですか? 平成20年7月14日
講師 角本浩二さん バランスアドバイザー 長野県健康管理士会会長

第13回 アメリカ生活で感じたあれこれ
—変化に対して前向きになることの大切さ— 平成20年8月19日
講師 針谷友久さん 東京中小企業投資育成株式会社 主任(長野県担当)

第14回 市役所第一庁舎及び長野市民会館の在り方を考える 平成20年9月16日
講師 水野守也さん 長野市総務部次長 兼庶務課長

第15回 長野バルセイロー 優勝報告&JFL昇格への挑戦 平成20年10月29日
講師 バドウ・ピエイラ監督、薩川了洋コーチ、貞富信宏キャプテン

第16回 農業再生とブランド化 平成20年12月3日
講師 町田良夫さん 社団法人長野市農業公社 常務理事

第17回 地上の楽園は馬の背にあり 平成21年2月18日
講師 中山 修さん 中山法律事務所 弁護士

第18回 循環備蓄型の農業の実践
—宇宙のリズムにあった農業で一次産業の再生を試みる— 平成21年6月3日
講師 塩澤研一さん (財)いのちの森文化財団副理事長 (株)水輪ナチュラルファーム代表取締役

第19回 郷土を包む「おやき」 平成21年7月14日
講師 小出陽子さん (同)ふきっ子のお八起 代表/信州おやきブランド化委員会 研究会リーダー

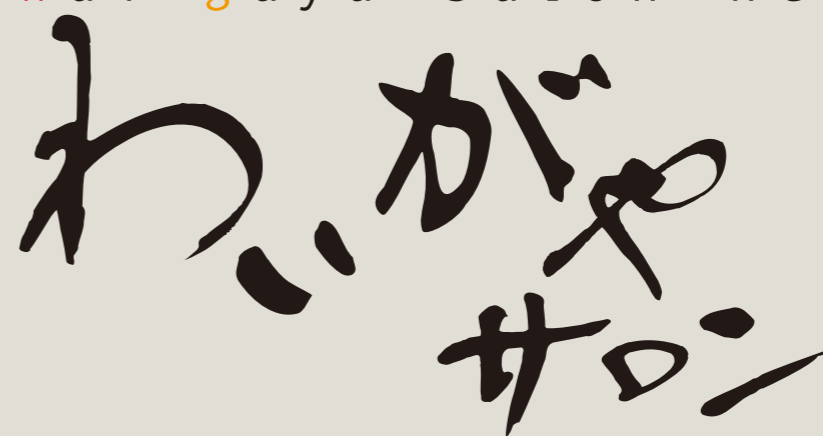
第20回 信州の伝統から生まれる食文化
—漬物の新しい風— 平成21年9月2日
講師 宮城恵美子さん (有)宮城商店専務取締役/木の花屋



Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人 長野都市経営研究所

〒380-0834 長野市大字鶴賀問御所町1289-1丸本ビル2F
TEL.026-235-7911 FAX.026-235-6166
www.nupri.or.jp
e-mail: nupri@nupri.or.jp



通信

Vol. 21

2009.12



Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人 長野都市経営研究所

第21回 飯綱高原を、もっと住みよく、おもしろく!

平成21年11月24日(火) 18:00~20:30

講師／志村雅由さん NPO法人 飯綱高原よっこらしょ／代表理事

■座長 岩野 彰 場所／NUPRI事務所 TEL.026-235-7911

長野の冬の訪れを知らせる西宮神社の「えびす講」、犀川べりの「煙火大会」も終わった11月最終火曜の夜は、「よっこらしょ」を合言葉に多彩な活動をしているNPO法人「飯綱高原よっこらしょ」(会員約90名)の代表理事・志村雅由さんをお招きしてお話を聞きました。

住民アンケートから見えてきたもの

今夜は飯綱高原を愛してやまない仲間「飯綱高原よっこらしょ」の1人として、自分たちの思いを語らせていただきます。

飯綱高原は飯綱山の南麓に広がる高原で、行政的には芋井支所管内に属しています。自然環境に恵まれ、なおかつ長野市街地に近いので、別荘だけでなく永住者もたくさんいます。ただ、住民同士の交流が少なかったんですね。芋井地区の方は代々の住民で、私は飯綱高原に住んで19年になりますが東京品川の出身、副理事長は杉並出身、というように新住民はそれぞれ出身地の文化を背負ってきています。そんなことから「よっこらしょ」の前身になる仲間が住民アンケートをとったところ、コミュニティ不足の指摘とともに、遊休農地に関する意見(放っておいていいのか、景観が悪い、ごみを捨てられるのではないかな等)が寄せられました。それらに対して自分たちで何とかできないものだろうか、ということになって手を上げた有志11人で平成19年に民間非営利組織(NPO)法人「よっこらしょ」を立ち上げました。



しむら まさゆき 東京都出身。次女の小児喘息治療のために転地を決意。長野県各地を探し巡り、飯綱高原に移住

遊休農地の活用

まずは圃場を造ろう!と東区の雑草が生い茂っていた1万6千㎡の農地を借り受け、自分たちで草を刈り、石を取り除いて耕起することから始めました。



「よっこらしょ農場」では「いいづな農楽舎」と称して、農作業体験と食べる楽しみを合体したイベントを開いている

最初の年はソバと大根を蒔きました。皆、素人ですから気長に肩肘張らず、売るためではなく、自分たちで食べたいから有機農法・無農薬です。収穫したソバは飯綱高原にある製粉会社でソバ粉にしてもらい、自分たちで打った蕎麦を食べる……初回から60人予約がすぐいっぱいになる人気イベントです。3年目にあたる今年ソバを6千㎡に蒔いたものの天候が悪く106キロしか収穫できませんでした。ちなみに去年は400キロ収穫でしたから、農業とは天候に左右されることを実感しました。

飯綱高原は標高千mですので、米や果樹は出来ません。それで先人(開拓農家の方々)は高原野菜に特化した農業をやってこられました。私たちは素人ですから、なかなかうまくいかないこともありますけれどもトマト、とうもろこし、野沢菜、じゃが芋、花豆などはよくできます。

会員が好きな野菜を作って自家消費するのが基本ですが、たとえば黒姫高原から移ってきた有名蕎麦店「ふじおか」さんから「地元産のソバをぜひ」と依頼されたり、いびつでもむしろ小さい野菜を望まれる「THE GOHONJIN FUJIYA」シェフとのつながりも生まれています。

農業と観光を結びつける

「よっこらしょ」が当初から打ち出した目標活動の一つに、〈グリーン・ツーリズム〉の企画運営があります。飯綱高原で営業している宿泊業者の宿泊者の活性化を担えれば、と提携:①ホテル・アルカディアが組んだ〈通年パッケージ・ツアー企画〉に農場を提供し、お客さんが種蒔き、収穫。その間の管理はこちらで。②同ホテルおよび公共の宿・アゼリアの〈朝採りツアー〉。

今年6月にはアルカディアさんと芋井の大豆生産組合との共同企画イベントを開きました(午前:芋井の休耕田に大豆を蒔き、午後:ホテルのおにぎり等を食したあと、芋井産の大豆を使って味噌造り。TVで発信)。こんな感じで飯綱高原内の農家、農村振興のために我々の活動がドッキングできれば、と考えています。



花豆煮(ブランド風味)をもってきてくれました

飯綱高原ビジターセンター「オトナリハウス」

飯綱高原は私たちの永住地であると同時に観光地でもあります。去年(平成20年度)は長野市の観光誘客キャンペーン「飯綱高原イヤー」だったわけですが、私たちも企画運営に関わり、「オトナリ高原」ブランドの確立に注力しました。オトナリの意味には、善光寺・戸隠のお隣であること、自然が奏でる風の音、鳥の声、人々の生活音、歌声などいろいろあります。

「飯綱高原イヤー」の年に、〈市街地の人との交流の場をつくろう〉と、「よっこらしょ」のマンパワーを結集させた事業が飯綱高原ビジターセンター「オトナリハウス」のセルフビルドです。5月より専門家の指導のもと、重機などを地方事務所等から借り受けることもし、地元の材を伐り出し、製材し、8月には棟上式。壁には漆喰を塗り……のべ380人のボランティアの力をあわせて10月に完成しました(経過をTVで放映)。

ハウスは通年開設し、「杜の講座(古道ウォーキング、スノーシューイベント等)」のターミナルとして、またマンスリー・ミニライブの会場として使い大変好評です。自分たちが考えていた以上に立派なものを完成させることができたと同時に今後の飯綱高原の誘客、留客(リピーター)につながる観光・交流の拠点になったのがいちばんの財産です。※表紙イラスト:「小天狗の森」駐車場一画に建つ「オトナリハウス」

スローライフの提案

更なる課題として、地域住民の高齢化に対しお手伝いできないか、というのがあります。メンバーも当然、年を取っていきますし、年を取っても楽しめる場所、打ち込めるものが飯綱高原にほしい、ということで〈コミュニティ機能〉をもつ〈スローライフ〉の提案をしていきたいと考えています。今、夢に描いているのは、住んでいる人のお母さんのメニューを出す〈コミュニティ・レストラン〉、たくさん取れた野菜を安心安全に加工する〈農産物加工場〉などの立ち上げ等々。いろいろを楽しく、前向きにやっつけていこうです。

同席した副理事長の菊池好純さん、事務局の山室秀俊さん含め、重い腰を上げるための掛け声など無用なほどの「よっこらしょ」パワーが充満した会場で、聴講者と「農業と観光」、長野市の「中山間地」が抱える諸問題について丁々発止の話が交わされました。



お話をお聞きして

「作った野菜を、その場で食べよう!」と畑にカマドを造った楽しいアイデアと実行力に感服しました。一度は使われなくなった道具類も再び息を吹き込まれ、さぞ喜んでいることでしょう。(K)